

# 新生児に対する後天的因子の視点から考えるDOHaD と腎臓

メタデータ	言語: jpn 出版者: 日本DOHaD研究会 公開日: 2019-01-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 西崎, 直人 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10271/00003464">http://hdl.handle.net/10271/00003464</a>

シンポジウム 3-4

新生児に対する後天的因子の視点から考える DOHaD と腎臓  
Developmental Origins of “Chronic Kidney Disease”:  
Should we focus on risk factors in NICU?

西崎 直人

順天堂大学医学部附属浦安病院 小児科

Naoto Nishizaki

Department of Pediatrics, Juntendo University Urayasu Hospital

本学会でも盛んな議論がされているように、早産児や低出生体重児の成長後の慢性腎臓病 (chronic kidney disease; CKD) 発症の一因が「生下時のネフロン数の少なさによる」ことは周知の事実である。しかし日々の臨床を通じてみると興味深いことに、新生児集中治療部門 (neonatal intensive care unit; NICU) に入院するほどの未熟性の強い早産児・低出生体重児であっても「全例」が成長後の CKD を発症するわけではない。また発症してもその重症度や発症時期にも差がある。これらを説明するためには、胎内環境の代用マーカーと考えられる出生体重のみならず、在胎週数、分娩様式 (帝王切開 or 経膈分娩)、出生後に NICU で行われた全身管理方法 (栄養方法、薬剤曝露、酸素投与など)、合併症 (敗血症、急性腎障害、手術歴など)、および NICU 退院後のライフスタイル (食生活、運動など) など多岐にわたる「後天因子」についても注意を払い、総合的な DOHaD の視点から俯瞰して論じる必要がある。

このような背景の元、演者らはしばしば NICU でも経験する「未熟 (児) 網膜症 (retinopathy of prematurity; ROP) と腎障害」に着目した。本講演では「出生直後の高濃度酸素曝露は網膜のみならず腎組織にも影響を及ぼすのか否か？」を動物実験から得た知見を含めて紹介したい。

未熟性の強い児にとっては、出生後に曝露されるイベント 1 つ 1 つが将来の疾病発症リスクとして重要な因子となる。特に本学術集会のテーマでもある理想的な新生児期の栄養管理、適切な腸内細菌叢の獲得に加えて、NICU 内での不要な高濃度酸素曝露を避けることで ROP のみならず、将来の CKD 発症リスクも減じられるのであれば、NICU 卒業生の児にとっては福音となるのかもしれない。

【略歴】

学歴・職歴：

2002 年 3 月 順天堂大学医学部 卒業  
2002 年 5 月 順天堂大学医学部小児科 入局  
2005 年 9 月 米国 University of Alabama at Birmingham 病理科 留学  
(~2007 年 5 月)  
2007 年 6 月 順天堂大学医学部附属静岡病院 新生児センター 医員  
2008 年 3 月 順天堂大学大学院医学研究科卒業 (医学博士)  
2008 年 4 月 埼玉県立小児医療センター 腎臓科 医員  
2010 年 4 月 順天堂大学医学部附属静岡病院 新生児センター 助教  
2013 年 12 月 順天堂大学医学部附属浦安病院 小児科 助教  
2015 年 8 月 同 地域周産期母子医療センター 副センター長 (兼任)  
2017 年 8 月 同 小児科 准教授  
現在に至る

専門領域：

小児腎臓病学、小児泌尿器科学、夜尿症  
周産期・新生児医学  
新生児急性血液浄化療法、エンドトキシン除去療法

所属学会：

日本小児科学会 専門医・指導医  
日本小児腎臓病学会 代議員、学術委員会 (委員)  
日本夜尿症学会 理事、学術委員会 (委員)、ガイドライン 2016 作成委員会 (委員)  
日本周産期・新生児医学会 評議員、周産期 (新生児) 専門医  
日本新生児成育医学会 評議員

日本腎臓学会、日本小児腎不全学会、日本小児泌尿器科学会、日本 DOHaD 学会、  
日本人類遺伝学会、国際小児腎臓病学会 (IPNA) ほか

文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラム

「次世代スーパードクター (NGSD) プロジェクト」 専攻医